

出題のねらい

近年は、「○○力」と表現されるような新しい能力が次々と案出され、それらが学校教育の「目的」や「評価」に大きな影響を及ぼす事態も少なくない。だが、そのような「○○力」が具体的に何を指すのかについては、それが育成あるいは評価・測定の対象として適切かどうかといった点も含めて、必ずしも判然とせず、種々の批判がなされている。本問題文の主題である「コミュニケーション能力」は、新卒採用企業が選考時に特に重視する点として16年連続1位(経団連、2018年度調査)となっている。「○○力」であり、その語をつづめた「コミュ力」が「若者言葉」として2013年の新語流行語(イミダス)にもなるほどに青年の大きな関心を引く一方、「コミュ障」といった語用からも推測されるように、コミュニケーションを「能力」という個人的要因からのみ捉える一面的な見方がなされているきらいがある。それを「個人」や「社会」にのみ還元せず、「関係」として読み解くことを主張する著者の批判的検討を読み、考え、問いに回答することは、これからの学校教育を担ってゆくことを志す本学の受験生にとって有益になると考え、出題する。

問1から問3の一連の問題を通じて、解答者の基礎的な読解力、要約力、表現力を評価する。問1は、「透明性のある指標」という表現を文章全体の文脈と関連づけて、適切な仕方では表現することができるかを評価する。問2は、抽象的な言葉で表現されている「関係性の個人化」という概念を具体的な事例と関連づけて説明できるかどうかを評価する。問3は、文章全体の論旨を踏まえた上で、「○○力」によって個人を評価することの問題点を的確に説明することができうるかを問う問題である。